



シンポジウム

大原美術館所蔵 西アジア関係資料と バイメタル剣

平成26年

12月21日(日)13:00～(17:10終了予定)

大原美術館児島虎次郎記念館 岡山県倉敷市本町7-2 倉敷アイビースクエア内(西門横、倉敷川側)

パネリスト:

津本英利氏 古代オリエント博物館研究員

「バイメタル剣の歴史的背景—青銅器時代から鉄器時代へ—」

岡村秀典氏 京都大学教授

「水野清一と京都大学学術調査隊—1959年のイラン調査を中心に—」

野島 永氏 広島大学准教授

「広島大学所蔵の青銅柄バイメタル剣について」

四角隆二氏 岡山市立オリエント美術館副主査学芸員

「イラン初期鉄器時代のバイメタル剣の製作技法解明にむけて—X線イメージングの成果—」

司会・進行:

吉川あゆみ 大原美術館主任学芸員

シンポジウム

大原美術館所蔵

西アジア関係資料とバイメタル剣

大原美術館は、洋画家児島虎次郎(1881-1929)の業績を記念するために、実業家・社会事業家である大原孫三郎(1880-1943)によって、1930年、岡山県倉敷市に開館しました。西洋美術を収集・公開する美術館としては日本初であり、我が国の美術館史、また西洋美術の受容史を考える上で特別な意義を持つ美術館です。

大原美術館の礎となるコレクションの収集は、「日本で洋画を学ぶ人々のために本物の名画を」という児島の願いに応え、大原がその財を投じることによりスタートします。彼らの熱意と奮闘は、エル・グレコの《受胎告知》やクロード・モネの《睡蓮》をはじめとする希代の美術コレクションとして結実し、1920年代前半に我が国にもたらされることとなりますが、それらの中には数々のヨーロッパ近代絵画とならんで、エジプトや西アジアの古美術品が数多く含まれていました。これらは招来直後の1923年に早くも一般公開され、1930年からは大原美術館において常設展示されることとなります。さらに戦後、考古学者水野清一氏(1905-1971)らの協力により先史イランの資料が追加収集され、1978年には児島虎次郎記念館内に古代エジプト・西アジア関係資料公開のための施設「オリエント室」が開設されました。

大原美術館では、2010年度より外部専門家を招いて、これら古代エジプト・西アジア関係資料約1300件の調査を実施しています。これらの資料を、現代の学術的知見に照らして分析・評価することで、多くの研究に資することができれば、また、その成果を展示活動に反映することで、他文化に触れるよろこびを広くお伝えできればと考えています。

この度、大原美術館では、昨年に引き続き、これらの調査の成果に基づいたシンポジウムを開催することとなりました。今回は、考古学者水野清一氏によって収集された西アジア関係資料とバイメタル剣をテーマに、研究発表、パネルディスカッション、および特別鑑賞会を実施します。大原美術館の西アジア関係資料の意義を確認するとともに、広く研究者・愛好家の皆様の関心を刺激する機会となれば幸いです。

プログラム.....

13:00～ 開会挨拶

13:10～ 研究発表

津本英利氏「バイメタル剣の歴史的背景—青銅器時代から鉄器時代へ—」

岡村秀典氏「水野清一と京都大学学術調査隊—1959年のイラン調査を中心に—」

(休憩)

野島永氏 「広島大学所蔵の青銅柄バイメタル剣について」

四角隆二氏「イラン初期鉄器時代のバイメタル剣の製作技法解明にむけて—X線イメージングの成果—」

16:00～ 休憩／特別鑑賞会 (於:オリエント室)

16:30～ パネルディスカッション

17:00～ 閉会挨拶 (17:10終了予定)

申込方法.....

定員80名(先着順) 聴講料無料

聴講をご希望の方は、大原美術館(Eメール:sympo@ohara.or.jp/電話:086-422-0005/ファックス:086-427-3677)までお申し込み下さい。お申し込みの際は、①お名前(ふりがな)、②ご住所・郵便番号、③お電話番号またはEメールアドレスをお知らせ下さい。Eメール、ファックスでのお申し込みの場合は、件名を「シンポジウム申込」として下さい。

このシンポジウムは、

公益財団法人大原美術館 第三創業基金(古代エジプト・西アジア美術品 研究、保存、展示施設整備事業)への皆様のご支援により実施されるものです。